

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3270101052		
法人名	株式会社 角八雲園		
事業所名	グループホーム ウェル・アイ		
所在地	島根県松江市山代町421-1 (電話) 0852-24-3918		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年10月29日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月3日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤6人, 非常勤4人,	常勤換算6.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000~54,000円	その他の経費(月額)	27,000円
敷金	○有(100,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3名	要介護2	4名
要介護3	0名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.8歳	最低 78歳	最高 103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中西内科医院・松江生協病院・足立歯科医院・松江市立病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとして地域住民と良好な関係を築きながら、利用者の希望やペースを大事にしたケアを行っているホームである。利用者は毎日近くの荒神さんにお参りしたり散歩に自由に出かけ、職員は笑顔で見送っている。利用者の希望で小規模多機能型事業所と共に泊旅行も実現させた。運営者、管理者、職員間のチームワークも良く、互いに情報交換しながら明るく楽しく意欲的に、サービスの向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「ホーム便り」に職員の異動のお知らせや担当者から近況報告を添えること、救急救命法の実施、などが課題であった。まだ実現はしていないが検討され計画にあげられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日頃の取り組みを振り返る機会ととらえ、職員全員で項目ごとに検討し管理者がまとめた。職員同士で情報交換を行ったり意見を出し合い、全員で課題の改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの活動や外部評価の報告、防災などについて話し合い、積極的に意見交換を行っている。防災について継続して検討し、地域の中で防災協力員の体制づくりが行われ合同訓練が実施された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には意見が言いやすいように話しかけたり、運営推進会議や家族会総会などで家族の意見を聞いている。家族からは意見、苦情などはあまり聞かれない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設時から散歩などを通して近隣の人と顔なじみになり理解や協力が得られている。広報紙の回覧や夏祭りなどのホーム行事を通じて地域との連携を図り、ボランティアや中学生・保育園児との交流も行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年職員全員で見直しを行っている。「ゆっくりとおだやかに・その人らしく」というわかりやすい理念を掲げているが、地域密着型としての内容がわかりにくい。	○	地域密着型サービスとしての役割を文言にどう活かすか、検討を望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時や会議などで話し合い、理念に基づいたケアの実践に努めている。職員は理念を共有し、それぞれが具体的なイメージを持ちケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が自由に散歩に出かけたり防災に対して協力が得られるなど地域との良好な関係が築かれ、お茶に誘われたりホーム行事などを通して交流している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を自分たちの日頃の取り組みを振り返る機会ととらえ、1項目ずつ職員全員で情報交換を行いながら検討した。全職員で課題を共有し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動や外部評価、行事などについて報告し意見交換を行っている。防災についての継続した話し合いの中から、地域で防災協力員の体制が作られた。	○	さらにいろいろな分野の人の参加によりホームの活動が広がることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市の担当者の所に出向き、情報提供をしたりアドバイスをもらうなど連携に努めている。地域包括支援センターを通じ近隣の高齢者の問題を支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や、ホーム便り・広報紙で様子を伝えている。必要時には電話で報告している。改善課題に基づき、便りに担当者がコメントを添えることが計画されている。	○	家族の知りたい情報が伝わるように、よりきめ細やかな報告がされることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議などで積極的に意見や要望を聞くことに努めている。居室の室温について意見を聞くことがあるが、それ以外は意見や不満はあまり聞かれない。	○	家族の意見の引き出しに努められているが、家族同士の交流の仕方や家族の声を引き出すための工夫をお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があった時は利用者きちんと話し影響が出ないように配慮している。新人には研修期間を設け、心構えや利用者一人ひとりの情報を伝え、先輩職員がついて指導をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成に力を入れ、積極的に事業所内外の研修に取り組み全員で内容を共有している。職員が向上心を持って働けるように資格取得のための支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との会議や県下の小規模ケア連絡会に出席し、情報交換をしたり研修を行っている。行事を通しての交流も行っている。	○	同業者との相互研修を計画するなど、さらなるサービスの質の向上に向けた取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族に必ず見学してもらいサービスを開始している。利用者状況によっては体験入居や自宅訪問など柔軟に対応する姿勢がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	相談をしたり、家族のような気持ちで接し互いに支えあっている。利用者からお茶を点てもらったり、「気をつけて帰るだよ」などと声をかけられ元気をもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のつぶやきを大切に受け止めている。職員は生活を共にする中で利用者の言葉や返事から微妙な気持ちを汲み取ることができるようになったと話している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を中心に職員全員で意見を交わしながら計画を立てている。カンファレンスには利用者や家族にも参加してもらい、意見を計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の介護記録に基づき、一ヶ月毎にアセスメント総括表を作成し計画の見直しや確認を行っている。状態に変化のある時は随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり利用者の健康管理に努めている。外泊や家族の宿泊、思い出の場所へのドライブ、墓参り、投票など、利用者や家族の希望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の納得したかかりつけ医になっている。定期的な往診や必要時には受診の支援をし、協力医療機関による24時間対応可能な支援体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルがあり職員全員で方針を共有している。本人や家族の意向を大切にし、ホームでできること、できないことを明確にしながら家族や医師との話し合いを始めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげなく排泄の誘導をしたり、職員が連絡しあう時にも利用者の前で名指しをしないよう配慮している。個人情報の取り扱いについては入居時に家族に話し同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴、散歩など、利用者の状態や希望、ペースを尊重した支援をしている。定時に散歩に出かける利用者もあり職員はさりげなく見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理担当の職員を中心に利用者の力を引き出しながら一緒に準備をしている。皆で食べたいものを考え献立に取り入れたりおかわりができるなど、食事を楽しむ配慮が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に声をかけながら支援をし希望があれば夜間入浴もできる。入浴を嫌がる人にも声かけを工夫し支援している。菖蒲や蓬、ゆず湯なども取り入れ楽しんでもらっている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくり、洗濯物干し、ゴミ箱折りなど、利用者は役割を持って生活している。手芸をしたり書や歌、一泊旅行など、楽しみごとを大事にした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の荒神さんへのお参り、買い物、ドライブ、散歩など、利用者は日常的に外出している。出かける機会の少ない人にも玄関先やテラスに出て外気に触れる機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は開設時から束縛感のない自宅と同じ自由な暮らしの支援を心がけ、利用者の動向を把握し、見守りや連携プレイをすることで鍵をかけないケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月一日を防災の日と決め利用者と話し合ったり避難訓練を行っている。今年度6月から地域の人々の協力を得て防災協力員の体制が整えられ、地域の人と合同防災訓練を行った。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握し、利用者の状態に合わせて大きさや形状など工夫している。水分摂取には特に気をつけ、好みの飲み物を選べるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や作業をする場以外に皆で集ったり思い思いに過ごせる場所があり、ホール全体がゆったりとしている。ミニギャラリーを作り書など利用者の得意なことを共有空間の中に採り入れ落ち着ける環境作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテーブル、カーペット、お茶道具、身の回り品など、なじみの物が揃えられ居心地のいい雰囲気がある。自分で作った手芸品や折り紙を飾ったり、人気スターのポスターを貼り楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。